3 月 3 日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書　6：60 – 71

「あなたがたも離れて行きたいか」

私たちがどれほど強く願ったとしても過去を変えることはできません。取り返しのつかない失敗をした時、人を悲しませてしまった時、私たちはその失敗を取り戻したいと願いますが、その願いが叶えられることはありません。もし、未来がわかっていれば、こんな失敗はしなかったのにとも思いますが、残念ながらタイムマシンが実用化されてはいません。

ヨシュアは民に向かって神への信仰を保つようにと呼びかけます(「あなたたちはだから、主を畏れ、真心を込め真実をもって……、主に仕えなさい。」ヨシュア記 24:14)。もちろん人々は熱意を持ってその言葉に応えていきます(「民は答えた。『主を捨てて、ほかの神々に仕えることなど、するはずがありません。』」ヨシュア記 24:16)。しかし、私たちは知っています。彼らがこの後、何度も神を裏切ることを。そして、何度呼びかけられても完全に立ち直ることがないことを。

そのような人々の歴史の中にイエスは来られました。「今度こそ」と願い、信じてみたいと思った多くの人々がイエスに従います。ところが、イエスが「私は命のパンであり、私の肉を食べる者は永遠の命を得る」と語られると、従ってきた人たちの間に動揺が走るのです(「わたしは、天から降って来た生きたパンである。……食べるならば、その人は永遠に生きる。……パンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」ヨハネによる福音書 6:51)。「イエスを食べるということは、イエスが失われてしまうことではないか」と思い、地上での成功が望めないとわかるとイエスの下を去る者たちが大勢現れました。イエスが与えられる本当の恵みに気づくことなく、自分の見たいものを見せてくれないと諦めて。

「イエスは十二人に、『あなたがたも離れて行きたいか』と言われた。」(ヨハネによる福音書 6:67)

ペトロが代表して「そんなことは決してありません」と答えます(「シモン・ペトロが答えた。『主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。』」ヨハネによる福音書 6:68-69)。しかし、イエスは未来を見通して、ユダによる裏切りを予告されるのです(「あなたがた十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。」ヨハネによる福音書 6:70)。

未来を変えうる力を持つイエスがなぜ自分の運命を受け入れられるのでしょう。過去の失敗は取り戻せないとわかっているなら、なぜここでユダを遠ざけないのでしょう。それはやはり、イエスが完全な人として生き抜こうとされたからではないでしょうか。未来を見通すことのできない「私たちと等しい人間」として最後まで歩もうとされます(「キリストは、神の身分でありながら、……人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、……十字架の死に至るまで従順でした。」フィリピの信徒への手紙 2:6-8)。人間の全ての選択を包み込んで、より豊かな未来を描き出される神の愛を示すために。

だから、人は何度失敗しても立ち直ることができるのです。事実、ここで力強く宣言したペトロは、イエスが逮捕されると逃げ出してしまいます(「人々が、『お前もあの男の弟子の一人ではないのか』と言うと、ペトロは打ち消して、『違う』と言った。」ヨハネによる福音書 18:25)。異邦人伝道について非難されると尻込みして身を引いてしまいます(「ケファは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、……割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしだした……。」ガラテヤの信徒への手紙 2:12)。しかし、その度ごとにペトロを立ち返らせる力が与えられ、ペトロは神の愛に応える者へと再度造り変えられていくのです。

人は必ず失敗する。過去は変えられない。それは紛れもない事実ですが、過去を顧みて正しく判断することはできます(「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように。」詩編 90:12)。

そして、絶えず問われる「離れて行きたいか」との問いに「否」と答えて続けることができるのです。